

問題解決的な学習 小学校（第3学年）

取り上げた内容項目

家族愛、家庭生活の充実

「家族愛、家庭生活の充実」に関する児童の実態から

「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか」という質問に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童の割合は70%程度であることから、家族との関わりの大切さを一層実感させていきたい。

特別活動（7月）「夏休みの計画」

- ・充実した夏休みになるように、学習や生活に加え、家族の一員として、自分にできるお手伝いについて計画を考えたり、話し合ったりする。

国語（10月）「ちいちゃんのかげおくり」

- ・家族全員でかげおくりをしたときや、一人になったときの主人公の心情を読み取ることを通して、家族の絆の大切さを感じる。

○主 題 名：「家族を思う心」C-（14）

○実施時期：11月

○資 料 名：「ブラッドレーのせい求書」【「小学校道徳 読み物資料集」P142～145】

○ね ら い：父母を敬い、家族と力を合わせて、楽しい家庭を築こうとする心情を育てる。

段階	学習活動	主な発問等
導入	1 自分の体験を話し合う。	<p>○皆さんは、家でどのようなお手伝いをしていますか。</p> <p>（予想される児童の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂掃除 ・茶碗洗い <p>○どのような気持ちで、自分たちはお手伝いをしているのでしょうか。</p> <p>（予想される児童の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言われているから。 ・しないと怒られるから。 <p>○家族がしている仕事にはどのようなものがありますか。</p> <p>（予想される児童の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご飯の準備 ・弟の世話
	2 「ブラッドレーのせい求書」の読み聞かせを聞き、「ぼく」の心情を自分との関わりで考える。	<p>○ブラッドレーは、どんな気持ちで請求書を書いたのでしょうか。</p> <p>（予想される児童の発言）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしたらお金をもらうのは当たり前だ。 ・お手伝いをしてあげているんだから。
展開	<p>どのような気持ちで、家族はその仕事をしているのだろうか。</p> 	

「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた指導のポイント

◆問題意識を醸成するための方法としては、

- ①資料の気付きからの問題設定
- ②日常の問題意識からの問題設定
- ③社会問題の共有からの問題設定などが考えられます。

本指導例は②で行っています。

◆問題解決的な学習を行う場合は、最初から、取り上げる問題を児童に与えるのではなく、分からない自分に気付かせたり、知りたいたいと思わせたりするなどして、問題を焦点化していくことが大切です。ただし、後の学習時間を確保することにつながるために、短時間で進むよう留意する必要があります。

段階	学習活動	主な発問等
展 開		<p>○お金をもらうことができたとき、ブラッドレーはどのような気持ちだったのでしょうか。</p> <p>(予想される児童の発言) ・本当にもらうことができた。うれしい。</p>
	<p>喜んでいたブラッドレーが泣いたのは、どんなことに気付いたからでしょうか。</p> 	<p>(予想される児童の発言) ・自分は間違っていたこと。 ・お母さんの思い。</p> <p>○お母さんは、どのような気持ちで家の仕事をしていたのでしょうか。</p> <p>(予想される児童の発言) ・家族に喜んでもらえるように。 ・家族が気持ちよく生活できるように。</p>
	<p>3 本時の授業を踏まえ、家族の関わり方について考えたことを交流し、自分の考えを深める。</p>	
終 末	<p>自分たちは、家の仕事(お手伝い)をどのように取り組んでいたのでしょうか。</p>	<p>(予想される児童の発言) ※家族のことを考えていた行動 ・お父さんが帰ってくる前に雪はねをした。 ※家族のことを考えていなかった行動 ・ブラッドレーのように小遣いをねだっていた。</p>
	<p>4 保護者からの手紙を読む。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>	<p>○皆さんのお家の人からの手紙を預かっているのので、読んでみてください。</p> <p>○より良い家族の関わり方について、どのような考えをもったか自分の考え書きましょう。</p>

中心的な発問

◆発問を行う際には、本時で扱う内容項目からぶれないようにすることが大切です。本実践では働くことの大切さを扱う「勤労」ではなく、家族の関わり方を扱う「家族愛」であることを意識しています。

自己の生き方について考えさせる発問

◆家庭との連携については、事前に保護者へ手紙に書いてほしい内容を伝えておきます。

◆感想を書かせる場合は、「学習前の考えと、学習後の考えがどのように変わったか」、「友達の意見を聞いてなるほどと思った考えは何か」など、どのようなことを書くかを指導することが大切です。

特別活動(12月)「冬休みの計画」
 ・充実した冬休みになるように、学習や生活に加え、家族の一員として、自分ができるお手伝いについて計画を立てたり、話し合ったりする。

(授業づくりのポイント①)
 上記は、問題解決的な学習の一例であり、「型」として固定的に捉えることがないようにすることが大切です。
 問題解決的な学習を取り入れた場合には、その課題を自分との関わりで見つめたときに、自分にはどのようなよさがあるのか、どのような改善すべきことがあるのかなどについて考え、話し合うことを通して、児童生徒一人一人が課題に対する答えを導き出せるようにすることが大切です。